

行雲流水

No. 3 5 2 令和5年10月27日発行

「読書の旅」は続く

校長 寒河江 正人

ここ数年、ヨシタケシンスケさんの本を読んでいる。

同じ本を何度も何度も読む。もうすっかり「はまっている」という感じだ。

思い起こせば、まず最初の出会いは、「かみはこんなにくちゃくちゃだけど」だった。次に、「あつかったらぬげばいい」と「ころべばいいのに」を勧められて読んでみた。その後、続けざまに「このあとどうしちゃう」を手にして、読んでみた。

「んー、んー、んー。おもしろい、おもしろい、おもしろい。」

ヨシタケシンスケさんへの興味がわいてきたなあ。

まなびあテラスに行って、係の人に「ヨシタケシンスケさんの本コーナー」を聞いた。

天童市立図書館にも行って、係の人に「ヨシタケシンスケさんの本コーナー」を聞いた。

「んー、人気があって、いつもコーナーが空っぽになりがちなんですよ。」と教えてくれた。どこの公立図書館でも、ヨシタケシンスケさんの本は、人気があるらしい。

本校の図書室担当の増坂若さんに「ヨシタケシンスケさんの本を入れてほしいな。」と頼んだ。すぐに増坂さんは、まだ本校の図書室にまだない新しい本を調べて入れてくれている。

今週は、「そのうちフラン」と「ヨチヨチ父」を貸してくれた。

「わたしのわごむはわたさない」と「おしっこちょっぴりもれたろう」も貸してくれた。

「んー、んー、んー。おもしろい、おもしろい、おもしろい。」

もう一気に読んでしまった。

昨日の朝、図書室で「ヨシタケシンスケさんの本って、いいですよねぇ。」って話しかけてくれた女子のお二人さん、ありがとう。

まだまだ読んでないのが、いっぱいあるんだよ。

楽しい楽しい「読書の旅」は、続いている。

「これもいいですよぁ。」って教えてね。